

「子ども部会」平成29年度後期活動報告について

1 報告事項

(1) 第5回子ども部会（平成29年10月27日開催）

ア 福祉と教育の連携体制について

各関係機関が作成する支援計画書の共有方法などについて確認した。

(ア) 支援計画書の共有が必要になる場合は、保護者を介して支援計画書を他機関へ渡してもらう。また、福祉事業所や教育現場で保護者に対して他機関で作成した支援計画書がある場合は提出してもらえるようお願いしていく。

(イ) 福祉と教育の連携を円滑に行っていくために、わたし手帳の存在や活用について、福祉の支援現場や学校の教育現場にも広く周知をしていく。

イ 子育て支援セミナーの開催について

今回のセミナーでは、「障害児の子育て一人ひとりの個性と向き合うために」をテーマとし、子どもの発達に関する基礎知識と相談支援を行う関係機関との連携について学ぶとともに、障害の有無に関わらず大切なことは何か、また同じ悩みを持つ保護者や関係機関同士がスムーズな連携を取り、保護者からの適切な支援に繋げることをセミナーの目的として、開催日時、講演内容、広報手段など具体的なセミナーの内容を検討した。

(ア) 医療の立場から見た子どもの発達について、障害児特有の発達段階や障害の有無に関わらず発育で大切なことは何かについて講演を行い、子どもの発達に対する理解促進を図りたい。

(イ) 子どもへの関わり方について、実際に不安に思ったことや悩んだこと、対応策などについて先輩保護者から報告し、対応策などの理解を深めてもらう。また、相談支援体制などの地域資源の利用についても紹介してもらう。

ウ その他

障害者差別解消法に関する課題の有無について

プラネタリウム遠足で起こった事例について共有した。

(前回の協議会で報告済み)

(2) 第6回子ども部会「子育て支援セミナー」(平成30年2月13日開催)

ア セミナー内容

内容	講演者	
講演「医療の立場から見た子どもの発達」	医療法人成精会 平野 千晶 氏	メンタルクリニック アンセル 院長
パネルディスカッション	コーディネーター	ひかりのかけ橋 大南 友幸 氏
	アドバイザー	メンタルクリニックアンセル 平野 千晶 氏
	パネリスト	刈谷市肢体不自由児・者父母の会 藤井孝 氏 刈谷手をつなぐ育成会 篠原 真由美 氏 らっこちゃん親の会 宮田 志保子 氏

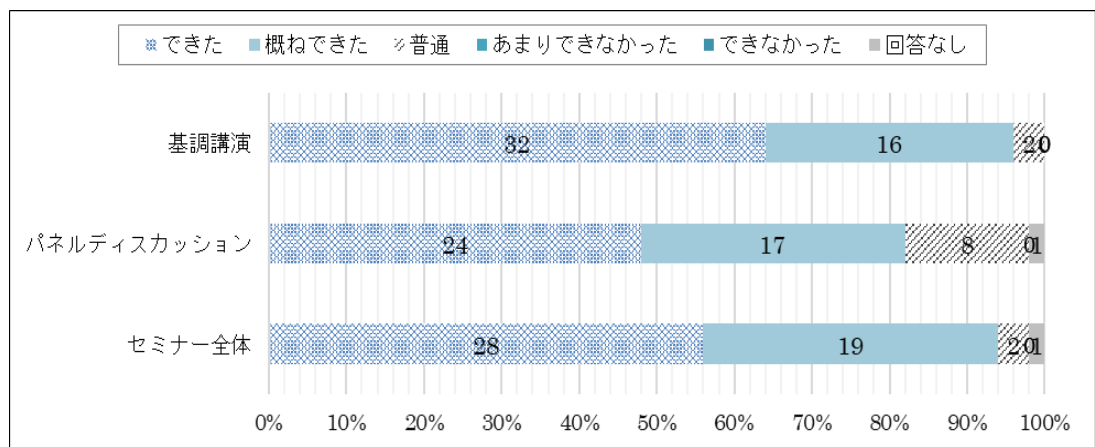
イ 参加者数

55名

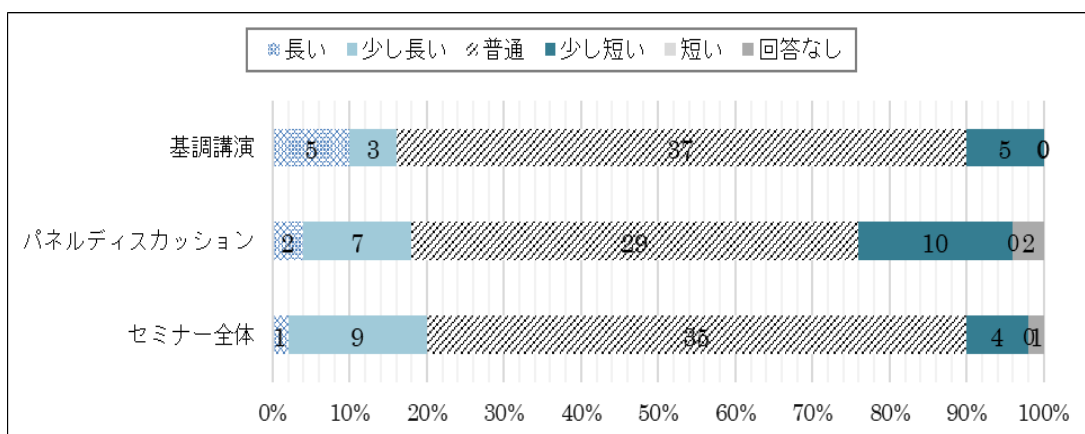
(一般参加者39名、市内福祉サービス事業所及び当事者団体等16名)

ウ アンケート結果

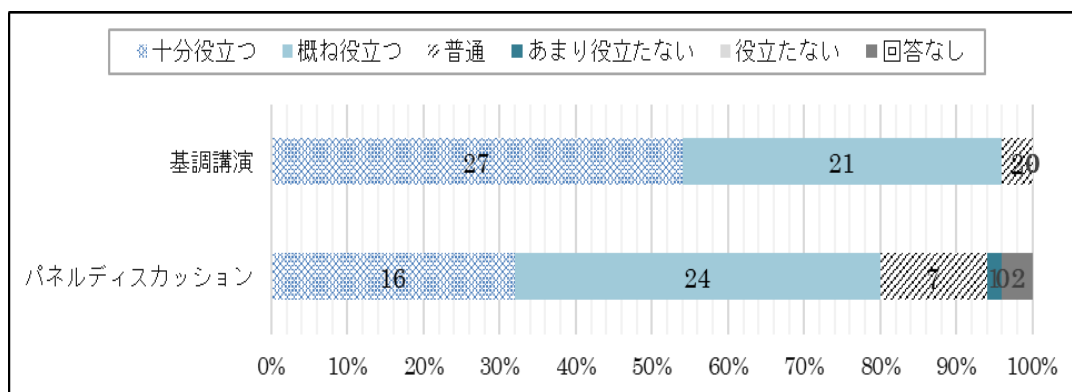
【内容の理解度】



【時間】



【日常の子育てや生活】



【自由記述】

- ・親として、今後の見通しが立つ内容だった。
- ・保護者の生の声が聞ける機会はありませんので、大変良い機会となった。
- ・みんなで考え、話す場をたくさん作ってほしい。
- ・発達障害の子どもの育て方についてのセミナーを開催してほしい。
- ・地域連携の大切さを再確認できたことと、今後の刈谷周辺での連携のあり方に興味、関心、期待、希望を抱ける内容だった。

(3) 第7回子ども部会（平成30年2月20日開催）

ア 子育て支援セミナー振り返りについて

参加者からのアンケート結果に基づいて、当日の所感や反省点を確認し、今後の見通しとともに、保護者に対する子育て支援のあり方について確認した。

(ア) 対象者の障害をもう少し狭めてくれれば、具体的に話しやすかった。

(イ) セミナーを通して、保護者が今後の地域生活のなかで学んだことをどう活かし、広めていくのが重要である。

イ 次年度の子ども部会について

今年度開催した子育て支援セミナーを振り返り、来年度の実施方法などを検討した。

(ア) 福祉と教育の連携について

福祉と教育の連携の強化に向けて取り組んでいくために、引き続き、各関係機関で作成する支援計画書の周知や啓発を行うことを確認した。

(イ) 子育て支援セミナーについて

来年度も子育て支援セミナーを開催してほしいという参加者からの声を受けて、引き続き、保護者支援に向けたセミナーの開催などについて企画する。

2 平成29年度の目標に対する総括及び今後の検討課題

(1) 福祉と教育の連携について

各関係機関が作成する計画書の共有の方法について確認することができた。今後は支援計画書やわたし手帳の活用により、本人に対する一貫した支援を行っていくための連携体制の強化を目指していく。

(2) 子育て支援セミナーについて

今年度が初めての試みである子育て支援セミナーを開催し、セミナーに対する満足度は高かった。また、病院の先生や実際に子どもを育ててきた先輩保護者からの生の声を伝えられたことで、保護者が自分自身と子どもの将来について見つめ直

し、考えるきっかけづくりとすることができた。そして、セミナーを通して、子どもの子育てや地域の支援体制などについて、とても前向きな意見が多く挙がっていたため、参加者が今後の子育てをする上で、大いに役立つことが期待できる。

来年度についても、参加者などから今年度と同様にセミナーを開催してほしいという多くの声を受けて、より多くの保護者が子どもの発達について理解を深める内容や広報手段などを検討し、保護者への支援体制を知ってもらうことで、地域で暮らす子どもが豊かな生活を送れるような内容での開催を目指す。